

相手意識

校長 川村 尚史

日本中がラグビーW杯で盛り上がっています。日本代表が活躍する姿に興奮するだけでなく、ラグビーそのものの魅力を感じている人も多いのではないのでしょうか。たくましい体の選手たちが1つのボールを追いかけて全身全霊で戦う姿は本当に迫力があります。また、試合後に敵味方関係なく互いを称え合う「ノーサイド」の精神はスポーツマンシップそのものであり、観ていて清々しい気持ちになります。11月上旬まで続く試合を、テレビ画面越しに大いに楽しみたいものです。

さて、そうした中、世界から賞賛されている日本人の“おもてなし”があります。それは、出場国の国歌斉唱です。

北九州市では、キャンプを行っているウェールズ代表の公開練習に、1万5千人もの観客が集結し、ウェールズ国歌を斉唱するサプライズで選手を迎えました。また、釜石市でのフィジー対ウルグアイ戦では、ウルグアイ代表のマスコットキッズを務めた8歳の少年が、選手たちと一緒にスペイン語の国歌を堂々と歌い上げました。さらに、観客席に歌詞カードを持ち込み、各国の国歌を斉唱する日本人の姿が多く見られます。異国の地で試合に臨む選手たちにとって、日本人が歌う自国の国歌は大きな励ましになり、たくさんの勇気を与えていることでしょう。

これは、単に「日本が勝てばよい」「自分たちが楽しめればよい」のではなく、相手をリスペクトし、何をすれば相手に喜んでもらえるのか、何をすればみんなが満足できるのかといった“相手意識”を働かせた素晴らしい行動だと思います。

藤塚小学校の子どもたちの“相手意識”はどうかというと……。困っている友達に優しく声をかけてあげる、下級生のレベルに合わせて遊んであげるなど、相手を思いやる姿がたくさん見られます。こうしたことができる人は、きっと相手の喜びを自分の喜びにできるのでしょう。とても素敵なことだと思います。

しかし、一方では、次のような姿を目にすることもあります。

- ・相手が嫌がることを言ったりやったりする
- ・自分勝手な行動をして、周りに迷惑をかけたり不快な思いにさせたりする
- ・公の場にふさわしくない行動をとる
- ・周りから見られているという意識が低く、人にどう思われるかを気にしない

これをしたら（しなかったら）相手はどう思うのか、周りの人はどう感じるのかを考えて行動するのが苦手な人がいることは、当校の課題の1つと考えています。

「相手の気持ちを察する」「場の空気を読む」といった社会性は、人間関係を円滑にし、互いが気持ちよく生活する上でとても重要です。学校では、道徳教育や特別活動を中心にしながら教育活動全体を通じて、こうした力を段階的に身に付けさせるよう、指導、支援を充実させて参りたいと思います。

保護者、地域の皆様からのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。